



イーホンセンター(高齢者医療センター)を訪問して

埼玉県 愛泉苑 君嶋 洋

1 はじめに

イーホンセンターが位置するトロントは、オンタリオ州の州都であり、カナダ最大の都市である。人口は250万人を超え、その約半数が移民に占められている。人種や文化等によって複数のコミュニティが形成されており、コミュニティ同士が互いに尊重しあって生活している。

2 施設概要

イーホンセンターは、1994年に中国系カナダ人医師のウォン博士が創設した高齢者医療センターである。高齢者の文化的背景を尊重し、さまざまなコミュニティ出身の高齢者が、安心して慣れ親しんだ環境に住むことができることを目標として設立された。長期ケア(老人ホーム)のほか、コミュニティサービス(通所プログラム、食事宅配、医師・リハビリテーションのサービス等)、高齢者住宅等を提供している。

2004年には、4番目の施設であるスカーボロフィンチ施設が設立され、今回はその施設を訪問した。スカーボロフィンチ施設は5階建ての老人ホームであり、入居定員は250人である。中国系社会の理念に基づき、高齢者を敬い、質の高いサービスを提供することを使命としている。また、施設内で医師の診察が受けられ、24時間体制で看護師や介護士がケアにあたっている。1日3回、入居者の体重を測り、食欲を調べ、ケアに活かしている。文化的背景の異なる高齢者にサービスを提供するため、施設内に特別ユニットがある。日系カナダ人は、日本人が設計・デザインした日本棟で生活している。職員が日本語の会話ができるため、入居者は気兼ねなく日本語で会話をすることができる。また、食事面でも和食が提供されるなど、配慮されていた。



イーホンセンターの依って立つ価値観

イーホンセンターは、英語・中国語・日本語を話すことができる人材を職員として採用するため、人材確保が課題になっている。職員の離職率は15~16%であり、介護士が不足している。このような状況のなか、ボランティアの力が施設を支えていると説明があった。現在、登録しているボランティアは1,000人を超えている。そのボランティアの1年間の労働時間を換算すると職員55人分の労働力になっている。

3 おわりに

日本は1民族1国家なので、カナダのような多民族国家の施設と簡単に比較することはできないが、高齢者が入居前の慣れ親しんだ環境を比較的に変えることがなく、施設で生活できることは素晴らしいと感じた。また、ボランティアが「できることをできる人が行う」という考え方のもと、短時間であっても参加しやすい環境になっており、その考え方やボランティアを支える職員の力量に感心した。